

研究機関：広島大学

研究課題名	肝線維化に伴う蛋白・遺伝子発現およびゲノム修飾の変化に関する研究
研究責任者名	広島大学保健管理センター 准教授 横崎恭之
研究期間	2017年12月18日（倫理委員会承認後）～ 2025年 3月
対象者	疫-922「消化器癌研究のためのデータベース登録」に登録されている者。
意義・目的	肝臓は炎症や傷害などにより、肝細胞などからなる正常組織がコラーゲンなどの線維組織でおきかわり弾力性を失い硬度を増します。これは組織学的（顕微鏡的）には「線維化」と呼ばれる変化で、多くの臓器で広く見られます。肝臓は線維化を生じる典型的臓器で、進行した状態が肝硬変です。しかし、詳細な誘因や進行の機序は未だ不明で、線維化自体の治療法は確立されていません。そこで、本研究では保存組織を用いて、線維化に伴いどのような物質が上昇（あるいは低下）しているかを確かめ、機序の解明と治療に結びつけることを目指します。
方法	本研究は、登録保存している肝組織を解析し、また診療録（カルテ）情報を調査して行います。カルテに記載の情報で、使用するものは身長、体重、性別、手術時の年齢、血液検査所見（AST, ALT, γ -GTP, 肝炎ウイルス抗原・抗体）です。個人が特定される情報は一切使用しません。
共同研究機関	Inserm UMR_S1110, 責任者名 Thomas Baumert
試料・情報の管理責任者	広島大学 インテグリン治療開発フロンティア研究室（保健管理センター） 准教授 横崎恭之
個人情報保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-5222 広島大学病院 消化器外科・移植外科 診療准教授 小林 剛